



2

【ひろばの風】

多様にして一なる全一的交わり
聖カタリナ大学 教授・副学長
谷 隆一郎



3

【Campus News】

地域連携推進室の設置について
ボランティアセンターが愛媛県総合防災訓練に参加
留学生日本語スピーチコンテストで
本学の留学生が『特別賞』を受賞
保育学科学生が第21回あそぼうフェスタに協力

4

【Campus News】

学生が愛媛県レクリエーション大会に協力
「カタリナフェスティバル in エミフルMASAKI」を開催
四国活性化フォーラム2017で
本学学生がプレゼンテーション



5

【Campus News】

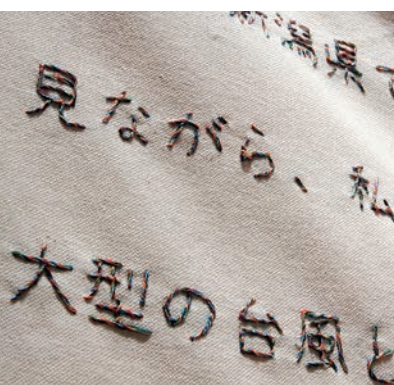
平成29年度 ロープジャンプ大会(みんなでジャンプinカタリナ)を開催
公益財団法人 松山市文化・スポーツ
振興財団との連携に関する協定を締結
健康運動指導士認定試験に、本学健康
スポーツ学科の学生4名が合格



カタリナ ひろば

Vol.30 No.2
2018.3

聖カタリナ大学
聖カタリナ大学短期大学部
www.catherine.ac.jp



6

【ESSAY】

「台風の進路が変わる時」
保育学科
牛島 光太郎



7

【ゼミナールインタビュー】

人間健康福祉学部 佐々木裕子ゼミ

【ご寄付のお願い】

教育振興募金のご案内

8 - 9

【就職活動レポート】

社会福祉学科 社会福祉専攻 藤堂 歩香さん
社会福祉学科 介護福祉専攻 福吉 史知さん
健康スポーツ学科 尾崎 天輔さん
人間社会学科 伊藤 雅彦さん
保育学科 正岡 晶子さん



10

【クラブ紹介】

なぎなた部

健康スポーツ学科3年 野間 佳歩

【教員著書紹介】

看護職・看護学生のための「痛みケア」

守本 とも子 編/室津 史子 (聖カタリナ大学教授
執筆担当部分: 第16章「出産に関連した痛みの看護」)
(株) PILAL PRESS ピラルプレス



多様にして一なる全一的交わり ーエクレスシア(教会)の本義をめぐってー

聖カタリナ大学 教授・副学長 谷 隆一郎

I. クリスマス（つまり、神の子の誕生、ロゴスの受肉〈ヨハネ1・14〉の祝日）を間近に控え、聖カタリナ大学の正面玄関を入ったところに、イエス・キリストの「聖家族」を表現した、慎ましくも興味ある作品が飾られている。それは恐らく、誰であれ見る人の心を何ほどこ和ませてくれるものであろう。

ところで、家族（ファミリー）と言えば、聖カタリナ大学にあっては国・公立大学とは多分に異なり、教職員と学生とのすべてが相俟って、「一つの家族」を形成しているという理念が大切にされている。そしてそのことは、古来のエクレスシア（いわゆる教会）という言葉の本義を自ずと想起させるのだ。というのも、教員、職員、学生という個々の人が、それぞれに尊い分（＝役割）を担いつつ、「多様にして一なる全一的交わり」を形成しているとすれば、そのこと自体、広義のエクレスシアの意味を有するからである。

そこで今回は、新約聖書以来の伝統が探究し語り出してきた「エクレスシア」の普遍的な意味と志向を少しく窺ってみたいと思う。

II. 使徒パウロは、よく知られた箇所であるが、次のような簡明な言葉でわれわれのいわば「全体として一なる姿」を語っている。

わたしたちの一つの体は多くの部分から成り立っている、すべての部分が同じ働きをしていないように、わたしたちも数は多いが、キリストに結ばれて一つの体を形づくっており、各自は互いに部分なのです。（ローマ12・4－5）

（ここにキリストという言葉は、さしあたりは「万物の根拠としての無限な存在」を指し示しているとしてよいであろう。）パウロは同様にまた、次のように言っている。

賜物にはいろいろありますが、それを与えるのは同じ霊です。務めにはいろいろありますが、それを与えるのは同じ主です。働きにはいろいろありますが、すべての場合にすべてのことを為すのは同じ神です。一人一人に霊の働きが現れるのは、全体の益となるためです。（I コリント12・4－7）

こうした捉え方によって、さらに集約的な仕方、「キリストはエクレスシアの（それを統合する）頭」（エフェソ1・10）であり、他方「エクレスシアはキリストの体」（同、4・12）であると洞察されている。それはともあれ、「われわれの体の部分と全体との関わり」という卑近な事柄が、「個々の人と全体としての一なる姿との関わり」として極めて象徴的に語られているのである。

ただその際、それぞれの個人のわざ・役割には、その尊さ（エクレスシアへの参与）という一点に関しては何ら差がないと言うべきであろう。もとより、各々の人の分（役割）にはさまざまな異なりがあるが、それらは「全体として一なる霊的な交わり」（エクレスシア）に参与してゆくべく秩序づけられている。かくしてそのことは、「全体の益となるため」とされているのだ。それゆえ、個々の存在が「多様にして一

る霊的かつ全一的な交わり」から単に切り離されて、相互に比較されたり、上下や優劣が言挙げされてはならないのである。



しるしの聖母、ヤロスラヴリ、13世紀

III. ちなみにシエナの

聖カタリナはその唯一の著作『対話―神と魂との』の冒頭部分で、次のような驚くべき言葉を発している。

ああ、永遠なる父よ、わたしはわたし自身を〔次のように〕あなたに訴えます。この有限な時（生）におけるわたしの〔あなたへの〕侮辱を罰してください。そして、わたしの隣人が負わなければならない罰は、わたしの罪が原因ですから、どうぞ、その代わりにわたしを罰して下さい。（序言）

この言葉は、昔からわたしにとって驚きであり謎であった。聖カタリナのような、幼き日より神との神秘的交わりを経験し、誰よりも聖なる生涯を送った人が、なぜこうした祈りの言葉を発したのであろうか。

かの人にあつては恐らく、自らの存在そのものが神の働き、神の霊に対して器とも場ともなっており、それだけに、自らのほんの小さな罪（神への背反）すらも見過ごすことのできないものとして凝視されていたのであろう。あるいはかの聖なる女性は、われわれすべての弱さと罪をいわば身代わりとなって担い、自他の全体を祈りによって神に捧げていたのであろうか。そうした不可思議な「現実以上の現実」に対して、パウロの先に挙げた箇所に続く言葉が深く呼応していると思われる。

一つの部分が苦しめば、すべての部分が共に苦しみ、一つの部分が尊ばれば、すべての部分が共に喜ぶのです。あなたたちはキリストの体であり、また一人一人はその部分です。（I コリント12・26－27）

IV. 思うに、われわれは誰しも―それぞれの置かれた境遇や状況はさまざまであろうが―、多かれ少なかれ人知れぬ哀しみや苦しみを抱えて生きている。してみれば、それらをいわば身代わりとなって全体として受け容れ、共に担ってくれる存在が、古来の歴史において希求されてきたと考えられよう。その意味で、神の憐れみのわざ・働きが―あるいは仏の慈悲が―と言ってもよいであろうが―、単にはかない願望としてではなく、真に実在的な働き（恵み）として多くの人々によって経験され、言語化されてきたのだ。クリスマス（神の子、ロゴス・キリストの受肉）やエクレスシアという言葉が、ここに改めて生命あるものとして現れてくるであろう。

ともあれ、今はただ、われわれもまた、そうした「霊的かつ全一的交わり」（広義のエクレスシア）に参与してゆくべく呼びかけられていることに思いを潜めて、この拙い一文の筆を置くことにしたい。

地域連携推進室の設置について

聖カタリナ大学・聖カタリナ大学短期大学部では、地域との連携、社会参加活動を促進するための総合窓口として地域連携推進室を設置しました。

地域連携推進室では、地域社会のさまざまな課題の発見と解決に向けて、本学の教育・研究機能を積極的に活用し、地域と連携して実践的・協働的に取り組み、地域貢献を果たしてまいります。また、社会人等の生涯学習ニーズに対応した学習の機会を提供します。

学生ボランティア、施設貸出、物品の貸出、地域交流のお申し込み等がございましたら、お気軽に地域連携推進室までご連絡ください。

【お問い合わせ】

地域連携推進室 TEL (089) 993-0702(代)

E-mail: renkei@catherine.ac.jp

ボランティアセンターが 愛媛県総合防災訓練に参加

11月5日（日）、文化の森公園で開催された「平成29年度愛媛県総合防災訓練」にボランティアセンターの学生が参加しました。

「災害時におけるボランティア活動に関する協定」を締結している松山市社会福祉協議会が開設した「福祉避難所」と「災害ボランティアセンター」でのボランティア受け入れ訓練、ボランティア活動リハーサル、福祉的なニーズを要する方の避難方法の確認などを行いました。有事のボランティアスタッフの動きや注意点を今回の訓練を通して体験的に学ぶことができました。福祉避難所の訓練では、本学の主に福祉を学ぶ学生が認知症高齢者や障害者など福祉的ニーズを抱える方を演じ、実際の動きに備えました。



留学生日本語スピーチコンテストで 本学の留学生が『特別賞』を受賞

11月5日（日）、愛媛県留学生等交流推進会議主催の「第14回留学生日本語スピーチコンテストin愛媛2017」が南海放送本町会館で開催されました。

このコンテストは2004年から開催されており、今回は県内の高校・短大・大学等に在籍する8カ国19名の留学生が出場しました。本学からは、台湾からの留学生で人間社会学科1年 呉郁萱（ウ・ユンセン）さんが出場し、「笑われる勇氣」をテーマに、日頃から学んでいる日本語で身振り手振りを交えてスピーチを行いました。

審査の結果、『特別賞』を受賞しました。おめでとうございます。



保育学科学生が第21回あそぼうフェスタ に協力

11月11日（土）、保育学科の学生33名が城山公園やすらぎ広場で開催された「第21回あそぼうフェスタ（松山市児童館合同事業）」の各イベントの運営に協力しました。

このイベントは松山市社会福祉事業団が毎年開催している恒例イベントで、「レクリエーション指導実習」の授業の一環としてレクリエーション・インストラクターの資格取得を希望する学生が毎年協力しています。

学生担当のコーナーでは「箱パズルあそび」と「お手玉なげ」の企画・運営を行い、多くの親子の方に楽しい時間を過ごしていただきました。

学生が愛媛県レクリエーション大会に協力

11月12日（日）、聖カタリナ大学と聖カタリナ大学短期大学部保育学科の学生約80名が「第34回愛媛県レクリエーション大会（主催：愛媛県レクリエーション協会）」の各イベントの運営に協力しました。

このイベントは愛媛県レクリエーション協会が毎年開催しているイベントで、今年度も本学で開催されました。

最初に昨年度まで愛媛県レクリエーション協会会長を務めた本学ホビノ・サンミゲル学長が、永年にわたるレクリエーション活動の普及・振興の功績をたたえられ表彰されました。その後、様々なレクリエーションのイベントが開催されました。

学生担当コーナーでは「わりばし鉄砲」、「ぬり絵」、「オセロゲーム」の企画・運営を行い、多くの親子の方々に楽しい時間を過ごしていただきました。

当日は、レクリエーションの授業で学んだ内容を活かすことができ、学生にとってもレクリエーション・インストラクターとしての役割を学ぶ良い機会となりました。



「カタリナフェスティバル in エミフルMASAKI」を開催

11月23日（木・祝）10時～16時、エミフルMASAKI エミモール1階・グリーンコートで聖カタリナ学園による「カタリナフェスティバルinエミフルMASAKI」を開催しました。

聖カタリナ学園の聖カタリナ大学・聖カタリナ大学短期大学部・聖カタリナ学園高校・聖カタリナ大学短期大学部附属幼稚園の学生・生徒・園児によるステージ発表、大学・高校の学科別体験コーナーや学校紹介を実施しました。

また、松山赤十字病院との協力協定の一環もあり愛媛県

赤十字血液センターの献血も行われ多数の方々にご協力いただきました。

たくさんの方々にご来場いただき誠にありがとうございました。



四国活性化フォーラム2017で本学学生がプレゼンテーション

11月26日（日）、松山市道後の大和屋本館で四国活性化フォーラム2017が開催され、藤原優歩さん（健康スポーツ学科・3年）が愛媛県チームの代表としてプレゼンテーションをおこないました。

本年度の四国活性化プロジェクト（四国の4新聞社主催、4県共催）は、「スポーツイノベーション～繋（つな）がるチカラ、広がる未来～」をテーマに各県が地域の産業や技術を生かした新たなスポーツ製品の開発に挑戦しました。

愛媛県チームは「汗を楽しむ、気持ちのいい汗」をキーワードに、学生のアイデアと地元企業の技術力（えひめの力）とがコラボした「Magical Sweat Wear」を開発しました。Magical Sweat Wearは、生地には遠赤外線効果のあ



るマテラパウダーを練り込んだマテラ糸を用いるなど生地作りからこだわり、視覚的にも汗や外遊びを楽しむことができるよう工夫を凝らしたスポーツウェア（Tシャツ&ポロシャツ）です。

＜聖カタリナ大学＞

・藤原優歩、横田華那（健康スポーツ学科・3年）

＜地元企業（えひめの力）＞

・S-CREAT 武田様

・丸鷹産業株式会社

・株式会社マテラ

平成29年度 ロープジャンプ大会(みんなでジャンプinカタリナ)を開催

12月12日（火）、保育学科学生、人間健康福祉学部学生、教職員が参加するロープジャンプ大会（みんなでジャンプinカタリナ）が開催されました。

この大会は、短大・大学の学生の親睦と教職員との交流を深めることを目的として、保育学科の学生が企画運営・進行等を行い開催される恒例イベントで今回は第8回目を迎えました。

今年度のロープジャンプ大会は、1チーム7名以上で8の字跳びの連続回数を競うルールで実施しました。

当日は、学生と教職員約150名が友達同士やサークル別（バレー部・弓道部・ダンス部）等の様々な方法で参加があり、13チームに分かれて、競技が行われました。

チームによっては、衣装を揃えてジャンプを行い、会場全体を盛り上げていました。

参加者全員がイベントを楽しみ、学生と教職員の親睦が深まるイベント内容でした。



公益財団法人 松山市文化・スポーツ振興財団との連携に関する協定を締結

12月12日（火）、公益財団法人松山市文化・スポーツ振興財団と聖カタリナ大学・聖カタリナ大学短期大学部との連携に関する協定調印式が松山市駅キャンパスで行われました。

調印式では、松山市文化・スポーツ振興財団 理事長 中山紘治郎氏とホビノ・サンミゲル学長が協定書を交わしました。

松山市文化・スポーツ振興財団は、松山市総合コミュニティセンター、松山市民会館、松山中央公園、埋蔵文化財センター、松山市考古館、松山市野外活動センター、北条スポーツセンター、北条体育館・武道場を運営する愛媛県松山市にある公益財団法人です。

今後は松山市文化・スポーツ振興財団と連携協力し、北条地域を中心に、誰もがができる体操づくりや住民の体力測定の実施、健康指導、スポーツイベントの共同開催などを行う予定です。



健康運動指導士認定試験に、本学健康スポーツ学科の学生4名が合格

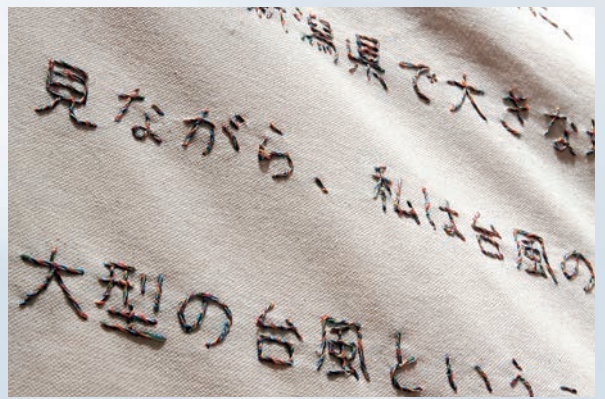
11月23日（木・祝）に行われました第137回健康運動指導士認定試験（公益財団法人健康・体力づくり事業財団）に、本学健康スポーツ学科の学生4名が合格いたしました。

全国平均合格率が55.1%のところ、本学は80%の合格率でした。

合格者の皆さん、おめでとうございます。

台風が進路が変わる時

保育学科 牛島 光太郎



2008年、私は台北市（台湾）にある關渡美術館（Kuandu Museum of Fine Arts）のアーティスト・イン・レジデンス・プログラムに招待され滞在制作をしていました。

アーティスト・イン・レジデンスとは、アーティストが自分の住む地域を離れ、一定期間ある地域に滞在しながらリサーチや作品制作などをするプログラムです。もともと欧米で確立されたこのプログラムは、1990年代前半頃から日本でも盛んに実施されるようになりました。

2007年から海外での制作活動を行っていた私は、半年間のドルトムント市（ドイツ）での滞在制作と展覧会の仕事を終え、すぐに台湾でのレジデンスに入りました。

關渡美術館は、国立台北芸術大学の敷地内に建てられていて、私はこの大学の教員用住居で生活しながら、美術館内のスタジオで約2ヵ月間、作品を制作していました。

美術館には、このプログラム担当の学芸員がいて、私の作品制作に必要な資料や素材を集めてくれたり、展覧会開催のための準備を手伝ってくれたりしていました。

ある週末、その学芸員と一緒に、台北市内で行われるアートイベントに出かけました。そこで私たちは、韓国人のアーティストと知り合いになりました。彼は私の滞在とほぼ同じ時期に台北市内の別の文化施設で滞在制作をしていました。

私と台湾の学芸員とその韓国人のアーティストは、同い年という事もあり、すぐに親しくなりました。お互いの仕事が終わると連絡を取り合い、毎晩のように3人で食事をしていました。

ある夕飯の時に、何気ない会話の中で、台風の話になりました。幼少期を福岡県で過ごした私も、台湾に住む学芸員も韓国人のアーティストも、夏から秋にかけての台風の進路は大きな関心事の1つで、それぞれの台風にまつわる個人的な思い出を話しました。

話をしながら私は、新潟県で大きな地震があつて間もない頃、台風が発生した時の事を思い出していました。その台風は、地盤が緩んでいる新潟県の被災地を通る可能性が高いとの事で、ニュースでは「深刻な被害が予想される」と繰り返し報道されていました。

その報道を聞きながら私は、「新潟県に行つてほしくないな」と思い、同時に、自分の住んでいる京都や、両親の

実家のある福岡県や千葉県にも行つてほしくないと思いました。結局、その台風は大きく進路を変え、韓国の方に逸れ、ほっとした事を思い出していました。

そして、今後、台風が発生した時、自分は目の前の2人の友人を思い出しながら、その台風が韓国や台湾にも行つてほしくないと思うのだろうなと考えていました。そう考えた時、私は私自身の鈍感さにショックを受けました。

当たり前の事なのですが、私の住んでいる土地に台風が、来たり逸れたりするように、私の知らない誰かの住んでいる土地にも台風は、来たり逸れたりしているのです。台風が私や私の大切な人が住む土地から逸れてほっと安心して、その台風は知らない誰かの住む土地の上を通っているという当たり前の事を、想像しようとしなかったのです。

台湾から帰国してからも、この事は頭から離れませんでした。

2年後、台風についての私たちの会話をもとにして、『7つの土地』というタイトルの作品を制作しました。その時の会話に上がった7つの土地に私が行き、台風にまつわるエピソードを集めるというものです。集めたエピソードは、7色の細い糸を縫った糸で布に刺繍しました。この作品は、2010年に三菱地所アルティウム（福岡市）という文化施設での個展で発表しました。同じタイミングで朝日新聞文化財団の助成を受け、この作品についての冊子を発行し、多くの美術施設の協力のもと、関連する土地に配布しました。配布した国や地域からは、台風にまつわる多くの個人的なエピソードを集める事ができました。

この体験から10年ほどが経ちます。この時の気づきは、私に多くの視点をもたらしてくれました。

私たちの目の前には、台風よりももっと複雑で解決するために忍耐と時間のかかる問題が数多くあります。

自分自身や家族や友人を思うのと同じような熱量で、知らない誰かを思う事は難しいかもしれませんが、その誰かについて想像しようと努める事は可能だと思いますし、そのような努力は今後、とても重要になると感じています。

本学は、「Charity for Your Neighbours」をスクールモットーとしています。この大切な精神を学生の皆さんと共に育んでいければと思っています。

ゼミのテーマを教えてください。

大きなテーマは、世界の貧困撲滅です。このようにグローバルでどこから手をつければよいのか、解決不可能と思えるテーマをローカルなところから（グローカルに！）考えています。国連の2015年までの約束（MDGs）に続き、2030年までに解決したい17のゴール「持続可能な開発目標」（SDGs）達成に向けて世界が取り組んでいることを、私たちが他人事にしない。そんな思いで現実を知り、世界の取り組みと歩調を合わせ、自分たちのレベルでできることを考えています。



ゼミの特徴を教えてください。

グローカルなゼミなので、課題は果てしなく大きなものですが、自分の生活の見直し、環境、食や残飯など、身近なことから考えます。また荒れ地を耕作し、収穫の喜びとその実り（千両茄子）で東南アジアの家庭料理を作って味わうなど、実践的で柔軟な発想を出し合い、キャンパス内で現地（貧困国）を模擬体験しています。時には、実際に現地支援をされている青年海外協力隊の方々に会いに行きます。海外ボランティア体験談を聞き、3年次はブータンの映画「思いを運ぶ手紙」を見ながら真の幸福とは何かを考えさせられました。



ゼミのスタイルを教えてください。

世界で起こっている現実・出来事を受け止め、特に世界の最貧諸国が貧しさから脱却できない要因を考えています。途上国における開発と支援のあり方、国際協力に求められる視点、国際機関・JICAの取り組み、NGOの挑戦、国際ボランティア体験談など年間を通して眺めます。4年次は3年ゼミ生を前に「世界一大きな授業」を実施、大学祭でフェアトレード商品を販売、農業体験など、自分たちも汗をかくスタイルを取っています。

佐々木裕子ゼミは **こんなゼミ**

3年後期の最後には架空プロジェクトを立ち上げ、その一部を4年前期に実施できることを試みました。架空プロジェクトとは、「食事がテーブルに並ぶまで」と題して、そのプロセスを空想！グラウンドの一角を残飯処理地帯にし、数年かけて肥やした土地に食物を育て、学食で調理し、孤食児童・独居高齢者を学生食堂に招き、クリスマスパーティーを開催するというもの。全く空想ではありますが、現代の食や廃棄をめぐる問題、環境、健康などをテーマにプレゼンで深めることができました。

社会福祉学科4年 松本昌也



ご寄付のお願い【教育振興募金のご案内】

聖カタリナ学園では聖カタリナ大学・聖カタリナ大学短期大学部の教育事業を永続的に発展させるため、また、教育環境の維持、充実を図るための支援として、皆様からの募金のご支援を受け付けております。

趣旨をご理解いただき、ご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

【お問い合わせ・お申し込み先】

学校法人聖カタリナ学園 法人本部事務局
〒799-2496 愛媛県松山市北条660番地
TEL 089-993-1300 / FAX 089-992-5616

Q1：内定先

Q2：その職場に就職を決めた理由

Q3：就職活動中に苦労したこと、工夫したこと

Q4：後輩たちへのメッセージ

自分だけで抱え込まず、色んな人に助けてもらおう！

社会福祉学科 社会福祉専攻 ^{とうどう} 藤堂 ^{あゆか} 歩香

Q1：医療法人財団 尚温会 老人保健施設 伊予ヶ丘

Q2：私は最初、地域分野での仕事をしたいと思っていました。しかし、合同就職説明会で伊予ヶ丘の説明を伺った際、利用者の方々の在宅復帰を目指した環境づくりのための取り組みや、利用者の方々に住み慣れた地域で生活して欲しいという熱意が伝わり、伊予ヶ丘に興味を持ちました。私はボランティアなどでしか介護の経験がなかったため、不安な気持ちの方が大きかったのですが、新人職員へのバックアップ体制もしっかりしており、利用者の方々はもちろんのこと職員の方々への配慮もなされていることから、伊予ヶ丘で職員として働きたいと思い、志望しました。

Q3：先にも述べたように、私は地域分野での仕事をしたいと思っていました。しかし、私が志望していた施設は求人が出ていませんでした。就職したいと思っていた施設からの求人が出ないことで「どこに就職したら良いのだろう」と焦

りと不安が襲いました。このことを就職課の職員の方に相談すると「地域だけでなく高齢や児童など他の分野にも視野を広げてもいいんじゃない」とアドバイスを受けました。この言葉から視野が一気に広がり、合同就職説明会の際に地域分野の施設だけでなく、高齢者施設や障害者施設など様々な施設のお話を伺い、今の就職先に決めることが出来ました。

Q4：就職活動しないと！と思っても、いったい何をすればいいのかわからない人も多くいると思います。そんな時は就職課の職員さんや先輩にアドバイスをもらおうといいと思います。わからないからとりあえず後回しにしようと思うのではなく、まずは自分から行動することが大事です。就職活動は1人で行うもののように見えて、実は色んな人に助けってもらいながら行なう活動です。皆さんも自分から行動し、色んな人に助けってもらいながら就職活動に取り組んでください。先輩として応援しています。

夢に向かって

社会福祉学科 介護福祉専攻 ^{ふくよし} 福吉 ^{みのり} 史知

Q1：医療法人 聖愛会 松山ベテル病院

Q2：私は入学当初から松山ベテル病院に就職したいと思っていました。それは、私が幼い頃に曾祖母が利用していたことがきっかけです。施設の夏祭りの写真を見ると、笑顔で写っている曾祖母がとても印象的で、施設や職員の環境が良いからこそ利用者の方も笑顔になれると感じました。4年生の春、松山ベテル病院に見学に行かせていただきました。施設では、一人一人に合った個別ケアが行われており、職員と利用者の方の間に深い信頼関係が築き上げられていると感じました。私も利用者の方から信頼される介護福祉士になりたいと強く思い、志望しました。

Q3：私が就職活動中に苦労したことは、履歴書の作成です。自分の長所や自己PRなどアピールしたいところを上手くまとめることができず悩んでいたため、友人や就職課に相談しまし

た。客観的視点から意見をもらうことで、スムーズに作成できました。また、面接では、第一に笑顔でハキハキ話すことを意識しました。笑顔でいることで緊張がほぐれ、質問に落ち着いて答えることができ、自己アピールもすることができました。悩んだ時は就職課に足を運んでみてください。相談に乗ってくれたり、アドバイスもしてくれたりするので気持ちもすこく楽になります。

Q4：就職についてそれぞれ悩みは違うと思いますが、まずは説明会や施設見学などに積極的に参加してみてください。現場で働いている人の意見や話を聞くことで、就職したいと思える事業所が見つかることもあると思います。周りの人たちの内定が決まってく中で不安や焦りもあると思いますが、そうなった場合にも、自分のペースで自分の就きたいと思う事業所から内定をもらえるよう頑張ってください。応援しています。

勉強大好きスポーツ系男子の就活物語

Q1：愛媛県警察本部

Q2：私は生まれ育った愛媛県に貢献したいという思いを軸に、就職活動を行いました。企業の合同説明会等に参加し様々な話を聞く中で、昔からの憧れである警察官を目指そうと思いました。そこで、3回生の夏に愛媛県警察本部のインターンシップに参加しました。5日間、あらゆる警察業務の説明を受けたり体験をしたりして、警察官という仕事にあらためて魅力を感じました。これらのことがきっかけとなり、愛媛県警察本部への就職を決めました。春から警察学校に入校します。一人前になれるよう日々精進していきたいと強く思っています。

Q3：私が苦労したことは、公務員試験の対策です。大卒で警察を受ける場合、公務員試験（上級）を受験しなければいけません。一次試験の教養試験では20科目から50問出題されるため、勉強にはかなりの時間を要しました。また、二次試験では論文試験があ

夢の実現へ、強い志を持つ！

人間社会科学科 ^{いとう まさひこ}伊藤 雅彦

Q1：陸上自衛隊

Q2：私が陸上自衛官を目指そうと思ったきっかけは、陸上自衛隊の活動の中でも、災害支援活動に関心を持ったことです。中でも東日本大震災や熊本地震では多くの隊員が復興に向け、被災者に寄り添い、一人でも多くの人々に元気になってもらえるように物資を運び、炊き出しや水分の提供など、様々な場所で懸命に活動している隊員の姿に強い憧れを感じました。私は大学生活の中で多くのボランティアに参加し、様々な経験をしましたが、今度は自衛官の一員として支援活動を行い、一人でも多くの方が笑顔になれる仕事をしていきたいという思いから、志望しました。

Q3：履歴書の作成に苦労しました。大学生活の中で取り組んできたことなどを文章にするのはとても大変で、何度も書き直しました。それでも進まず就職課へ相談に行くと、最後まで一緒に考えてくださいました。その後、自分が書きたいと思う文章がすらすら書けるようになり、納得できる履歴書を作成することができました。また、面接も得意ではなかつ

たため、何度か就職課の方々に面接の練習もしていただきました。本番では、指導していただいた所に気を付けて自分の意志を面接官にはっきり伝えることができました。履歴書作成や面接で困ったことがあれば、一人で悩まず就職課に行ってみてください。相談することによっていい結果につながると思います。

Q4：合同企業説明会・単独の会社説明会・インターンシップに積極的に参加することが大切です。企業の担当者の話を聞き、その企業の仕事内容や雰囲気を自分の目で確かめ、さらに体験することによって自分が働いているイメージを膨らませることができると思います。就職活動中につらいと感じることや自分だけ内定をもらえないと焦ることもあると思いますが、自分のペースで就職活動をすることで夢の実現へつながると思っています。また、就職課へ何度も足を運び相談することで、自分自身の新たな発見につながると思います。強い志を持ち続けることが夢の実現につながっていきます。悔いの残らないように最後まで頑張ってください。応援しています。

健康スポーツ学科
^{おざき てんすけ}尾崎 天輔

りました。文章構成だけでは合格できないと思い、警察が毎年発行する白書をできる限り暗記し、事件数や県内の犯罪状況、検挙件数を論文に取り入れるよう工夫しました。その他に県庁面接と警察本部面接があり、集団討論もありました。論文対策をしたことで、面接や討論の受け答えに深みを出すことができましたと思います。

Q4：就職先に求めるものは一人一人違うと思います。高給がいい人、勤務する時間帯に希望がある人、仕事の内容にこだわりたい人など、様々な考え方があると思います。そういった自分の理想を叶えるためにも、ぜひ多くの説明会に参加してみてください。就職活動にやり過ぎも早過ぎもないと思います。大学生活は4年間ですが、社会人生活はその10倍です。よく吟味してより良い就職活動ができることを祈っています。がんばってください！

心から行きたい場所を目指して

保育学科 ^{まさおか あきこ}正岡 晶子

Q1：学校法人 挿桃学園

Q2：私は挿桃学園の幼稚園で1年次、2年次と教育実習をさせていただきました。二度の実習を通して、私の理想とする先生方にたくさん出会うことができました。また、子ども達や先生方の元気と笑顔のパワーがあふれるこの場所で、私も子ども達と一緒に成長し、夢を叶えたいと思うようになりました。実習が終わった後にも、合同就職説明会や園見学でさらに深く話を聞き、教育方針や福利厚生面にも納得した上で改めて挿桃学園の幼稚園に惹かれ、採用試験に臨むことを決意しました。

Q3：履歴書と、試験当日持参の作文を書くことに苦労しました。私は文章力や日本語表現に自信がなかったため、まず自分で書けるところまで書いて、就職課の方々に誤字脱字や文章の構成などを細かくチェックしていただきながら仕上げていきました。履歴書をしっかりと考えて書けたことで、面接の時にも自信を持って自分の考えを

伝えることが出来ました。また、就職課からのメールをよく確認して、就職ガイダンスや合同説明会には必ず参加していました。そうすることで、自分が今何をすべきなのかヒントを得ることができました。

Q4：保育学科のみなさんの就職活動は、大半の方が2年生での最後の実習が終わってからになると思います。私はある程度「こんな園にいきたい」という考えがあったため、2年生の春から就職課へ求人票を見に行き、気になる園のホームページを見るなどして調べていきました。2年生の前期は、実習や土曜日の振替授業等で大変忙しいとは思いますが、早め早めに就職課へ行って、気になる園の求人票や応募締め切りを確認しておくといいと思います。早めに動き出して損はしません。自分が心から行きたい場所を勝ち取ってください！悩んだ時は就職課の優しい職員の方々に相談してみてください。いつもの確で優しい言葉が返ってきますよ！

なぎなた部



私たちがなぎなた部は、創立30年以上の伝統ある部活動で、多くの先輩方に支えられ活動しています。新入部員に今年度開設された看護学科の学生を迎え、3名の少人数ではありますが、県大会や全国大会に向けてそれぞれの目標に向けて頑張っています。今年度は特に、平成29年10月に開催された「愛顔つなぐえひめ国体」に向けて、地元の中高生や大学生をはじめ社会人の方々と一緒に稽古や準備に励んできました。



その成果もあり、愛媛国体では、聖カタリナ大学なぎなた部から、選手として1名選ばれ、全国の選手と技を競い合いました。また、選手以外の部員も、大会役員として、競技を支え、愛媛県チームの優勝という結果と一緒に喜ぶことができました。地元での国体開催は一生に一度あるかないかの貴重な体験

です。選手や、大会役員として大きな達成感と感動を味わうことができました。

また、現在私はなぎなた連盟の理事をし、大会運営や準備等、たくさんの方々と出会う機会があります。なぎなたは、武道として伝えられてきたもので、「礼に始まり、礼に終わる」といわれ、礼儀を大切にしてきました。多くの方々に支えられた感謝の気持ちと、なぎなたで培った精神を日常生活や、社会に出た時に生かすことができるよう、今後も文武両道で学校生活や部活動に精進していきたいと思っています。

健康スポーツ学科
3年 野間 佳歩



看護職・看護学生のための「痛みケア」

守本 とも子 編／
室津 史子 (聖カタリナ大学教授
執筆担当部分：第16章「出産
に関連した痛みの看護」)
(株) PILAL PRESS ピラール
プレス



本書は、看護の中でとても重要な「痛みのケア」についてまとめた一冊です。「人間と痛みの関係」、「痛み理論」、「痛みと看護」、「痛みケアにおける看護実践例」をⅠ～Ⅳ部に分けて書いています。実践例では術後疼痛、がん性疼痛、急性・慢性疼痛、出産に関連した痛み、小児に関連した痛みというように、主な疾患や状況における痛みに対するケアについて述べています。私は第Ⅳ部の「出産に関連した痛みの看護」の執筆を担当しました。

出産は神秘的で感動的なものです。しかし、産痛や後陣痛、乳汁分泌や授乳に伴う痛みなど、母となる女性はいくつかの痛みに直面します。痛みは基本的に私的な体験であり、個々の知識や体験、経験によって認知も表現も、好まれる痛みの緩和方法も異なります。したがって、分娩の機序を十分に理解して産婦を丁寧に観察することが基本です。そのうえで産婦の痛みを軽減するために腰や足を温めたり、アロマセラピーを用いたりなど多様なケアの方法を考えます。そしてそのケアを、一人ひとりの女性の、その時々思いに寄り添った中で選択して実施することが重要なのです。

患者の痛みは、その程度を理解し難くケアに困ることがあります。そのような時に、本書に示した疼痛発生のメカニズム、痛みの評価方法、アセスメント、看護計画例などを活用して様々な痛みケアに役立てていただけることを願っています。



学校法人 聖カタリナ学園

聖カタリナ大学

カタリナひろば vol.30 No.2

編集・発行

広報委員会

〒799-2496 愛媛県松山市北条660番地

TEL (089) 993-0702 (代)

kouhou@catherine.ac.jp